

湧き水 fun 倶楽部 とは？

身近な湧き水を訪ね、湧き水を取りまく文化、自然環境を学び、湧き水に関する情報収集と情報発信を目的とした愛好会です。
平成23年3月に『浦添市湧き水MAP』を完成。
平成25年3月に『浦添の湧き水』を発行。
学習会やイベントの企画、講師やガイドの派遣も行っています。
『浦添の湧き水』は、浦添市建設部景観まちづくり室の「第12回まちづくりプラン賞」の助成を受けて作られました。

お問い合わせ



wakimizufun@yahoo.co.jp

湧き水 fun 倶楽部 活動記録

<http://wakimizufun.ti-da.net/>

編集・発行 湧き水 fun 倶楽部

発行日 平成25年3月31日



浦添の湧き水



自然

環境

歴史

文化

防災



もくじ

- P 02-03 もくじ・発刊にあたり
- P 04-05 人と水（沖縄の湧き水のしくみと文化）
- P 06-07 仲間樋川
- P 08-09 澤岬樋川
- P 10-11 安波茶樋川
- P 12-13 牧港ガー・立津ガー
- P 14-15 伊祖メヌカー・赤皿ガー
- P 16-17 井の大人川・西原東ガー
- P 18-19 当山ソーシガー・当山ウフカー・屋富祖前ヌ井泉
仲西ウフガー
- P 20-21 アトゥガー・大平の井戸・宮城の拝所・ドゥンチガー
- P 22-23 震災と湧き水
- P 24-25 ちょっと寄り道
- P 26-27 浦添城跡と湧き水・湧き水と祈り
- P 28-29 首里城お水取り行事
- P 30-31 湧き水を調べてみよう
- P 32-33 湧き水 fun 倶楽部の主な活動
- P 34-35 湧き水によせて ～結びのことば～

発刊にあたり

この小さな冊子『浦添の湧き水』を手にとって下さってありがとうございます。
あなたは今、どのような思いでこの頁をめくられたのでしょうか。

水の音、感触、安らぎ、歴史、文化、自然……様々な思いがきっと
心の中をかけめぐっていると思います。

人間を含む生物にとって命の源である大切な「水」。そもそも「水の惑星」といわれる地球のなりたちからすると、人間はその水によって身体的にも精神的にも生かされている。だからこそ、私たちはあらためて、謙虚な気持ちで湧き水に向かうことが必要だと感じます。

浦添市に初めて水道が入ったのは昭和37年。（当時は浦添村）村全域に水道が完備されたのはそれから5年後の昭和43年。今からほんの50年ほど前のことです。水道のない暮らしを知る方も身近に多くいらっしゃいます。

水道がなかった頃は、それぞれが地域の水源を持ち、その維持管理を含め、人々は水を大切に思い行動してきました。その思いを、私たちが現代生活の片隅に持っていたいと考えます。

『浦添の湧き水』は水のある所を中心にまとめました。この水は地域の自然・文化・そして安全を支えています。お子さんたちには是非、ご近所の年配の方に湧き水のことや水道のなかった頃の話たくさん聞いて欲しいと思います。その中にはきっと命をはぐくむ自然の大切さや生活の知恵、そして、いざという時に自分の命を守る方法など、生きる力につながるものがいっぱい詰まっています。地域、学校、ご家庭で活用いただければうれしいです。



編集作業風景

平成25年3月

湧き水 fun 倶楽部代表 ぐしともこ

人と水

人間の体の約60%は水分です。体内の水分は汗や尿として体外に出て行きます。人間は、体外に出た水分は自ら補わなければ健康な状態を保つことができません。人間の体における正常な循環を保つためには、一日2ℓ～3ℓの水分補給が必要とされています。

生き物が生きていくためには水は必要不可欠です。もちろん、人間も水がなければ生きていくことができません。そのため、人間は常にその生活の場に水を求めてきました。

湧き水とは？

広辞苑や大辞林で「わき-みず(湧き水・湧き水)」を調べてみると、「わいて出る水」「地中からわき出る水」「ゆうすい」とあります。さらに「井」「井戸」について調べてみると

「井」とは ①湧き水(泉)または流水から用水を汲みとる所。

②地を掘り下げて地下水を汲みとる所(掘り抜き井戸)。井戸。

「井戸」とは 用水を得るために、地下深く掘り地下水を吸い

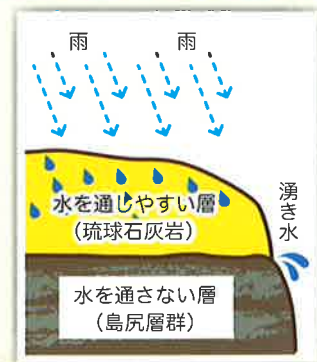
上げ、又は汲み上げるようにしたもの。

「井泉」とは 井戸又は井戸の水。



画 H. Katsura

湧き水のしくみ



琉球石灰岩や細粒の砂岩(ニービ層)は水を通しやすく、しみこんだ水は、島尻層群(クチャ層など



泥岩の地層)などの水を通さない地層の上を流れ、湧き水となって出てきます。

場所：浦添市前田
JICA 沖縄国際センター近く
撮影：平成24年6月

湧き水の呼び方

沖縄では、井戸のことを「カー」、川のことを「カーラ」と呼びます。井戸にはその他に「ガー」、「ジャー」、「ハー」、「ケー」、樋から水が流れ落ちる所を「ヒージャー」等、その呼び方に違いがあります。呼び方にはその地域や前につく言葉によって違いがあるようです。

湧き水にまつわるしきたり

産水(ウブミジ)

生まれた子どもを浴びせたり、その額に水撫でいをするために用いる井泉の水のこと。

若水(ワカミジ)

元旦に初めて汲む井泉の水のことで、その水で仏壇やヒメカン(火の神)に供えて家族の健康を祈願するもの。若水はたいてい男の子が汲み、近所のお年寄りにも汲んで行き、お年玉を貰う習慣がありました。若水によって若返る(再生)意味もあるようです。

水撫でい(ミジナディ)

井泉から汲んだお水(ウビー)に中指を浸し額を撫でる儀式。ウビナディともいう。元旦には子ども達に、生まれた子には健康を祈願し、結婚式には花嫁花婿の額に水撫でいをしました。

カー拝み(カーウガミ)

井泉を拝むこと。カーウガン、井戸詣(カーメー)ともいう。村レベルの年中行事、又は、数年ごとに行われる門中祭祀で、水への感謝や村や一族の健康、繁栄などを祈願する。

水汲みにまつわる琉歌

『伊計離ぬ嫁やない欲しやあしが 犬名河ぬ水ぬ汲みぬあぐでい』
大意：伊計島のお嫁さんになりたいのですが、犬名河の水を汲むのは大変なことだ。

参考文献：沖縄大百科事典、崎原恒新／沖縄の年中行事、上江洲均／沖縄の祭りと年中行事、長嶺操／沖縄の水の文化誌、宜野湾市教育委員会／ぎのわん自然ガイド、比嘉政夫／沖縄の祭りと行事、与那城村史、広辞苑、大辞林、他



仲間樋川

ナカマヒージャー

場所 仲間2-44



1731年に書かれた「琉球国旧記」に記載され、その頃にはすでに樋がかけていたことがわかります。昭和10年にはコンクリートで水タンクや平場などが作られ大きく改修されました。(現在残る石積みは、戦前からのものです。) 琉球石灰岩の洞穴から湧き出る水を石灰岩(マーマー)造りの樋で導き、大切な水を「飲用水」→「洗濯用水」→「雑用水(農具や農作物の水洗い、

馬の水浴びなど)→「灌漑用水(田んぼや苗代田)」の順番で何度も再利用する工夫が見られます。その頃は各家庭に井戸はほとんどなく、仲間樋川は飲料水や生活用水として炊事、洗濯、雑用水など幅広く利用されました。戦争が終わった後も、近くにあった仲間収容所に集められた当時の浦添村民数千人が生活水をまかなったほど水量が豊富で、昭和40年代に上水道が普及するまで地域の共同井戸として人々の生活を支えました。その後は児童の安全などのため、石樋のあたりが大きくコンクリートで覆われましたが、平成21年に復元整備されました。ここは昔から産水や若水などを汲む産ガーとして大事にされており、旧暦の5月、6月のウマチーや12月の御願解きなどの年中行事に今でも自治会でムラ拌みをして大切に守っています。

(平成14年3月浦添市の文化財に指定。)

参考文献：浦添市教育委員会 / 仲間樋川、他



昭和40年代の改修時

十字の刻み



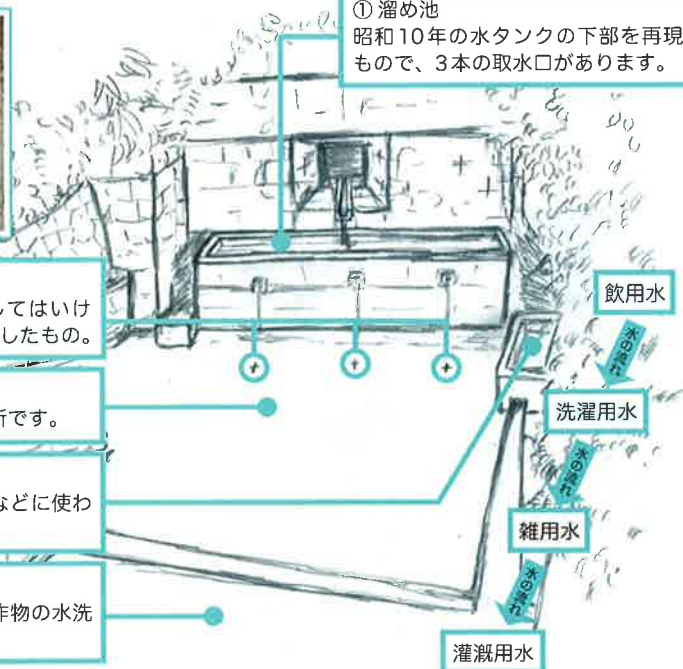
② 十字の刻み
「そこから先で洗濯をしてはいけない」という決まりを示したもの。

③ 平場
洗濯などに使われた場所です。

④ 水槽
水をためて洗濯や行水などに使われました。

⑤ ウマアミシ
馬の水浴びや農具、農作物の水洗い等に使用されました。

① 溜め池
昭和10年の水タンクの下部を再現したもので、3本の取水口があります。



水質検査 DATA

検査年月日

平成24年10月8日

検査時間

11:18 ~ 11:25

気温 (°C)	27.8
水温 (°C)	23.3
外 観	無色
臭 気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	3~4

注1. 水質検査の項目についてはP31を参照
注2. この検査結果で飲み水としての判断はできません。

澤岬樋川

タクシージャー

場所 沢岬1-46



お水取り行事の様子



澤岬樋川の聖水をクバの柄杓で壺に納めます。



辺戸大川と沢岬樋川の水で仕込んだお神酒の振舞い

1000年以上前、澤岬集落の発祥のころから重宝されてきた名泉。

正月の朝は国王と国民の健康と長寿、国の繁栄と五穀豊穡を祈願し、「若水」を献上した水としても知られ、行事が復活していることから、お正月の朝には今でも若水を汲みに来る人が訪れます。

崖下の岩とクチャの間から水が湧き、自然の洞窟の中に水が溜まり、大雨でも濁りがありません。水量が豊富で水質もよく、ウナギやモクズガニの目撃情報もあります。日常的に散水や魚を飼育する水として近くの方が利用しています。

眺めのよい高台に位置するこの場所は、昔、澤岬城があったと言われ、船に向かって煙(のろし)を上げたという話や、昭和17、8年頃まで毛遊び(モーアシビー)をしたという話も聞かれます。近くにあったクワディーサーの大木も有名でした。



建物の下の方に湧き水が保存されているのはとても珍しい光景。

平成10年に120年ぶりに復活した『首里城お水取り行事』。現在は毎年12月最後の日曜日の午後行われており、当日はどなたでも見学ができます。琉球王府時代の正装で古式にのっとり厳粛に行われ、澤岬樋川ではお神酒のふるまいもあります。

(首里城お水取り行事についてはP28-29も参照)

澤岬樋川を管理する玉城弘さんのお話

私のおばあさんから聞いた話。おばあさんが小さかった頃、この行事の際に汲んだ澤岬樋川の水は、巫女が白い馬に乗って首里城まで届けたという記憶があると言っていましたよ。白い馬はその時にだけしか使わなかった。昔はその馬を結んでおくための石もありましたよ。この水は神聖な水として特別にあついていたのですね。



玉城さん 写真後方中央



水質検査DATA

検査年月日

平成24年10月8日

検査時間

12:32 ~ 12:42

気温 (°C)	26.2
水温 (°C)	25.0
外 観	無色
臭 気	無臭
透視度 (cm)	50 以上
COD(mg/l)	0~1

注1. 水質検査の項目についてはP31を参照
注2. この検査結果で飲み水としての判断はできません。

安波茶樋川

アハチャヒージャー

場所 安波茶2-5



近くの小川付近に大繁殖したヤナギバルイラソウ (7~8月)



1731年に書かれた「琉球国旧記」に記載され、現在も木々の生い茂った奥の方から、長い石樋を伝って清水が流れ出ています。

水道が入る以前は飲料水を汲む人や洗濯をする人、畑の帰りに農耕具を洗う人などたくさんの人が訪れ、にぎわう場所だったようです。当時は樋の下にたらいを置いて水を受けることができるほど落差があり、水が勢いよく音を立てて流れ落ちていたようです。

昭和30年代にあった干ばつで、周囲の井戸は水が枯れてしまいましたが、安波茶樋川は水があったため、離れたところからも洗濯に訪れる人がいたそうです。近くには戦後まで田

んぼがあり稲作をしていましたが、その干ばつ以降は田んぼの水が枯れてしまい、今はすべて畑にかわりました。

戦後、村の祭りで青年団がヒージャー(ヤギ)をさばく時にこの水を使ったことや大雨が降ると近くにあった泡盛工場からもろみが流れてきたことなど、地域の方たちにはいろいろな思い出があるそうです。近くには津俣(チマダ)ガーと呼ばれる小さな湧き水もあります。

(平成14年3月に浦添市の指定文化財)



「津俣(チマダ)ガー」

安波茶樋川から流れ出した水は、市立図書館わきの小川となり、その後、城間まで暗渠になり、最後はシリン川となってカーミージー(亀瀬)のある東シナ海に注いでいます。市立図書館わきの小川では、テナガエビ、たくさんのオタマジャクシ(6~8月)やカワニナ、清流に棲むトンボの仲間、オオジョロウグモなどもたくさん棲んでいます。

川沿いにはメキシコ原産の紫色の花を咲かせるヤナギバルイラソウが大繁殖している姿も見られます。



腹部を上げて体温調整をするベニトンボのオス(7月)



アカナガイトトンボの連結産卵(7月)



縄張りを主張するオオシオカラトンボのオス(7月)



水質検査DATA

検査年月日

平成24年10月8日

検査時間

11:05 ~ 11:15

気温 (°C)	26.8
水温 (°C)	24.6
外 観	無色
臭 気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	2~3

注1. 水質検査の項目についてはP31を参照
注2. この検査結果で飲み水としての判断はできません。



牧港ガー

マチナトガー

場所 牧港2-44-1



シマヌカー、ウブガーという呼び名でも親しまれています。

かつては水を導く樋があり、干ばつでも枯れない程水量も多くとても美味しい水だったそうです。戦前はお正月の若水もここで汲みました。エビがいて、「よくとって食べた。とても美味しかった」という話も聞かれます。夕方になると水浴びをする人で賑わい、流れ出た水は少し離れた場所にあった池（クムイ）に注がれました。そこでは、洗濯をし、おむつを洗い、牛や馬を浴びせ、その後は田んぼに流れるという、最後まで水を上手に使う工夫がありました。西側には闘牛場（ウシモー）があり、観戦をしながらこの水を飲んだりしたそうです。軽便鉄道や乗り合いバスも近くを通り、交通の便もよく、昔から自然と開発の調和が取れた住みやすい場所だったようです。戦後は簡易水道の水源としても活用されました。



水質検査DATA

検査年月日 平成24年10月8日

検査時間 10:25 ~ 10:35

気温 (°C)	27.0
水温 (°C)	27.5
外観	無色
臭気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	1~2

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

立津ガー

タチチガー

場所 牧港2-5-10



立津原（タチチバル）にあることからこの名で呼び親しまれており、近くにある伊祖グスクとの関連から伊祖（イージュ）ガーという別名もあります。

「琉球国由来記」によるとグスクの用水にも利用され、英祖王との関わりもあったと言われており、天人由来（羽衣伝説）も伝わる由緒ある場所です。昔は洞窟（ガマ）の中から水が湧き出ていましたが、現在は改修され、形が変わっています。水道が入る以前は、地域に暮らす伊祖や牧港の方々の飲料水や洗濯、水浴び、馬を浴びせたりする水に利用され、それぞれ用途に応じて使う場所も分けていたようです。戦後は簡易水道の水源としても活用されました。数十年程前までは、周囲に田んぼが広がる水の豊かな場所でした。一時期水質汚染が問題になったこともありましたが、浄化制御装置も設置され、現在では澄みきった水が湧き、農業用水として使われています。



水質検査DATA

検査年月日 平成24年10月8日

検査時間 10:37 ~ 10:45

気温 (°C)	26.8
水温 (°C)	24.2
外観	無色
臭気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	1~2

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

伊祖メヌカー

イソメヌカー

場所 伊祖4ー13



1731年に書かれた「琉球国旧記」には、伊祖の井戸として前之井と記載されています。子どもが生まれた時の産水やお正月の若水を汲んだ神聖な場所でした。他にもクシヌカー、上ヌカー、伊波ガーや個人の井戸など、まわりには今も多く井戸が残っており、水の豊かな地域だったことがわかります。中でもメヌカーは一番大きく、水量も豊富だったため、いざというときの防火用水としても大事にされていました。地域の方々のお話によると、戦後もしばらく、あたりには田んぼがひろがっており、メヌカーへは人がすれ違うことができないほど細い幅の田んぼのあぜ道を通って行ったため、お正月の若水を汲みに行く際、正面から先輩の姿が見えると、道を譲るために後退しなければならず、「いつまでたっても水を汲めなかった」という話も聞かれました。形は大きな半円形で2段になっており、あいかた積みや布積みも見られる美しい井泉です。



水質検査DATA

検査年月日 平成24年10月8日

検査時間 10:50～11:00

気温 (°C)	25.3
水温 (°C)	27.5
外観	無色
臭気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	3～4

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

赤皿ガー

アカザラガー

場所 安波茶3ー8



琉球王朝時代に造られた安波茶橋のすぐそばの岩の下から、今も静かに湧き続けています。直径にして2メートルにも満たないものですが、ニービ（砂岩）を通して湧き出る水はとても澄んでいます。かつて浦添出身の尚寧王が首里へ向かう際、または、首里から普天間宮にお参りに行く際に、途中、橋のたもとで休憩しこの水で喉を潤したと伝えられ、その際、桐の赤い椀で水を差しだしたことから「赤皿ガー」という名前がついたのだそうです。人工的な石積みは見られず、ほとんど自然の状態を残しています。

以前は、水があふれ出すほどの水量があり、その水はすぐそばの小湾川に注ぎ、地域の方々はその水で戦後まで洗濯をしていました。又、戦前、近くにサーターヤーがあり、そばの池（クムイ）でサーター車をひく馬を浴びせる光景も見られたそうです。



水質検査DATA

検査年月日 平成24年10月8日

検査時間 12:07～12:18

気温 (°C)	28.2
水温 (°C)	23.8
外観	無色
臭気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	2～3

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

井の大人川

イノウシガー

場所 字前田693番地付近



大人(タイジン)と書いて「ウシ」と言う尊い言葉から、「井の中でも尊い井」という意味で「井の大人川(キノウシガー)・地域の人の呼び方ではイノーシガー」と呼ばれています。これは、昔、首里王府から授かった名称だと言われています。浦添城の前に田んぼが広がっていたことから「前

田」という集落名がついた水の豊富な場所でした。明治時代、7か月間、日照りが続いた時も水が枯れることがなかったと伝えられています。戦前は、半月状に切石で縁取られた水ためから水を汲んだようですが、戦後、コンクリート製のタンクに改修され、蛇口から水が出るようになりました。タンクの側面には工事の費用を寄付した人の名前が記され、沖縄コカ・コーラ ウィリアム・イーマーチェットさんの名前も大きく記されています。水道がはいる以前は飲料水に使われ、戦時中、収容所でお風呂に入るのも遠慮していた人たちがこっそり来たそうです。現在は近所の方が雑用水に利用しています。



水質検査DATA

検査年月日 平成24年10月8日

検査時間 9:15 ~ 9:25

気温 (°C)	25.8
水温 (°C)	23.5
外 観	無色
臭 気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	1~2

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

西原東ガー

ニシバルアガリガー

場所 西原4丁目うがやま公園



この水は甘くて他の水とは比べ物にならないといわれるほど美味しいと評判の水で、600年ほど前から水が湧いていたという記録があります。丹念に積まれた石積みも立派で300年ほど前に造られたようです。手前と奥に水ためが2つある珍しい形をしています。水ための背後は三心円状

で野面積みと布積みが見られます。水ための前にはヒンブンがあり、初めは行水の際の囲いとして使われたようですが、その後、婦女子が水を運ぶとき、水桶を乗せやすくするための台として使われました。産水や若水汲む大切な場所で、夕方の5時を過ぎると飲み水を汲みに来る人で大変にぎわったそうです。別名「産井戸」「湧くガー」「泉井(イジュンガー)」とも呼ばれていました。後方には「洗濯ガー」があり、飲み水と雑用水とは分けて使っていたことがわかります。かつて周囲には田んぼや畑が広がっていました。

(昭和56年3月浦添市の文化財に指定)



水質検査DATA

検査年月日 平成24年10月8日

検査時間 9:35 ~ 9:42

気温 (°C)	24.8
水温 (°C)	22.6
外 観	無色
臭 気	無臭
透視度 (cm)	50以上
COD(mg/l)	5

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

その他の湧き水

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

当山ソージガー

場所 当山1-12



水道が入る以前は主に洗濯等に利用され、早魃が続くと飲み水にも利用されました。現在は農業用水に使用。

気温 (°C)	25.6	水質検DATA
水温 (°C)	24.7	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	10:12 ~ 10:18
COD(mg/l)	2~3	



当山ウフカー

場所 当山3-8



主に当山、仲間等、地域の方々からは水がとても豊富なことで知られていました。現在は農業用水に使用。

気温 (°C)	25.0	水質検DATA
水温 (°C)	23.2	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	9:58 ~ 10:07
COD(mg/l)	1~2	



屋富祖前ヌ井泉

場所 屋富祖3-1



かつて地域の飲料水や生活用水に利用。当時は水を汚さないよう屋根があり、後方には大きな赤木がありました。

気温 (°C)	27.4	水質検DATA
水温 (°C)	24.9	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	13:30 ~ 13:40
COD(mg/l)	1~2	



注意 拝所や私有地内など、他にも市内には湧き水がありますが、必ず許可を得て使いましょう。

仲西ウフガー

場所 仲西1-10



水道が入る以前は飲み水として利用。洗濯やお風呂は禁止されていたようです。現在は農業用水に使用。

気温 (°C)	25.5	水質検DATA
水温 (°C)	25.7	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	12:50 ~ 13:00
COD(mg/l)	1~2	



その他の湧き水・井戸

注1.水質検査の項目についてはP31を参照
注2.この検査結果で飲み水としての判断はできません。

アトウガー

場所 仲間 1 - 13



かつて飲料水や生活用水に利用。雨が降るとすぐ溢れる程浅く、普段は柄杓で水をすくっていたそうです。

気温 (°C)	25.3	水質検DATA
水温 (°C)	25.7	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	11:30 ~ 11:40
COD(mg/l)	2~3	



大平の井戸

場所 大平 1 - 2



公民館近くの建物の駐車場内にあります。私有地なので勝手に入らないようにしましょう。

気温 (°C)	27.3	水質検DATA
水温 (°C)	27.4	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	13:45 ~ 13:55
COD(mg/l)	1~2	



宮城の拝所

場所 宮城 2 - 28



戦後、都市化が進み、各小字の香炉を一ヶ所に合祀してあります。(写真後方)前方の井戸は水が汲めます。

気温 (°C)	29.6	水質検DATA
水温 (°C)	24.8	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	13:51 ~ 13:25
COD(mg/l)	1~2	



ドウンチガー

場所 宮城 1 - 16



かつては飲料水に利用。洗濯は禁止で屋根もありました。当時は周りに蛍がいたそうです。現在は散水に使用。

気温 (°C)	28.8	水質検DATA
水温 (°C)	25.7	検査年月日
外 観	無色	平成24年10月8日
臭 気	無臭	検査時間
透視度 (cm)	50以上	13:05 ~ 13:13
COD(mg/l)	2~3	



災害と水～阪神淡路大震災の復旧支援に参加して～

平成7年1月17日未明に発生した、阪神淡路大震災。この大震災に対して、沖縄県から初めて水道復旧支援隊として14人の技術職員が被災地に派遣されました。私も支援隊の一人として、震災から10日後に兵庫県芦屋市に入りました。そこで目にしたのは、道路は寸断され、家屋も破壊、電気、水道、ガスなどのライフラインはズタズタになって、真冬の寒い中、学校や公園で避難生活をしている人々の悲惨な光景でした。



わが沖縄県は、島々から成り立つ離島県で、災害に見舞われた時、他府県のようにすぐに近隣県から応援や救援物資が届くとは限りません。復帰後、上水道、簡易水道事業等を整理統合し用水供給事業からの受給依存に伴い、北部取水南部消費の中で、もし、このような大規模災害が発生した場合、被害の規模によっては復旧までに月単位の期間を要すると思います。

沖縄の先人達は、水の有難さを知り、湧き水や井戸を拝所として大事に保存してきた歴史があります。去る沖縄戦では激しい砲火の中、水を求めてさまよい川や湧き水、井戸、ため池の近くでたくさんの犠牲者が出たとの話も聞いています。しかし、近年は水道の普及や地域開発等の影響で湧き水や井戸、ため池等の数が減少して保存状態が劣化していることは残念なことです。

東日本大震災を教訓に、災害時の「水」の確保の手段として、全国的に地域の湧き水及び井戸等の活用が見直されています。生活を営む重要な文化遺産であると同時に、地域の災害時における備蓄水源として利用できるよう、調査、検証を行い後世へ継承していくべきだと思います。

上間 恒信(元県企業局職員)



市内湧き水の水質検査～いざという時のために～

東日本大震災後、地域の湧き水が防災・減災にも大きく役立つことが重要視されたことから、浦添市が平成25年1月に発行の「浦添市防災マップ」に浦添市内の湧き水の場所を掲載するため、市防災危機管理室の川上隆室長と湧き水fun倶楽部の桂浩史さん(沖縄県環境科学センター勤務)、そしてこの会の代表をつとめる私の3人で市内18箇所の湧き水を回りました。

その際、各地点で検査した時間、気温、水温、外観、臭い、透明度、COD(P31参照)を記録しこの冊子にもデーターを記載しています。検査した湧き水の水質は概ね良好で、飲料水には適さなくとも、トイレや消火の水として充分使用できることがわかりました。災害時には飲み水以外にトイレ等の衛生面や火災を消火するための水の確保も重要で、日ごろから地域にある地下水を把握すること、水質を悪化させないための努力が、防災・減災に重要な役割を果たします。

今のように北部に大きなダムがなかった頃は、各集落に村ガーと呼ばれる共同の湧き水があり、飲料水、生活用水、雑用水、灌漑用水、防火用水として活用され、地域活動の一環として、清掃や管理も行っていました。当時は、まさに「命の水」の源であり、神聖な場所としてここを拝み、水を絶やさないため、汚さないためのルールを作り、守ってきました。年中行事の中にもこの場所で行われるものも多く、そのような機会に子どもたちへ、自然の尊さや水の危険から身を守る方法なども伝えられたように思います。

現代の私たちも、生活の中で身近な湧き水に親しむ機会を持ち、いざという時のためにも自宅や近所の井戸、湧き水について確認しておくことをお勧めします。

ぐしともこ



ちよつと寄り道 ~物語のある湧き水を訪ねて~

当山 東ガー トウヤマアガリガー

場所 当山

この水で作った豆腐はとても美味しかったそうです。井戸の中には2匹のウナギがいて、一匹は髭が生えていたことから、夫婦だったのかも？と言われていました。旧暦3月3日の浜下りの日にここを拝む風習があります。

地域の人々が亡くなる時には、井戸の中心部分だけが青く色が変わっていたという不思議な話が伝えられています。



龍巻井ガー ルーマシガー

場所 経塚

日照りの時、龍が天に立ち上るのを観て掘ったところ、水がこんこんとわきでたところから名前がついたと伝えられています。「ドゥーマシガー」ともよばれています。

(石碑の文面より)



カチラガー または カシラガー

場所 内間

井戸の頭、または、婦人が髪を洗う井戸という意味からこの名がついたのでは？と伝えられています。龍神様が住む場所だとも言われ、神聖な場所として今も大事にされています。かつてはお正月の若水や子どもが生まれた時の産水など聖水として使われました。



お散歩しながら探してみよう！



今は使っていませんが、沖縄の人は、昔の人が使った湧き水をずっと大事に守っています。そんな湧き水も訪ねてみましょう。

当山ガー 場所 当山



トウヤマガー 半円形で3段の石積があります。首里の井戸をお手本にしたようです。

夫婦ガー 場所 経塚



ミートウガー 夫婦のようにふたつの井戸が仲良く並んでいます。

シール川湧神 場所 港川



シールガーワクシン 上港川地域の人々が若水を汲んだ井戸跡。

大川 場所 勢理客



ウフガー ポンプで7メートル下から水を汲み出すことができます。

基地と湧き水

小湾の全てと城間の約半分の土地は、戦後アメリカに接収されたため、戦前に暮らした場所に帰ることのできない人々が今も多くいます。お世話になった井戸もフェンスの中に思い出となってしまいました。かろうじて、フェンスの外に残された城間ウブガーは、大きなガジュマルの下にひっそりとその姿をとどめています。

城間ウブガー 場所 城間



グスクマウブガー

浦添城跡と湧き水

浦添グスクは、首里城以前の中山王城（舜天王統1187～1259年、英祖王統1260～1349年、察度王統1350～1405年）として約220年間栄華を極めたことで知られています。「浦添」の地名はもともと「津々浦々を襲う（支配する）」という意味があり、当時の勢いとその名からも感じられます。

14世紀頃の浦添グスクは、後に造られた首里城とその周辺によく似ており、原形になった城と言われています。

王都が首里に移された後、浦添グスクは荒廃の一途をたどりましたが、1524年頃からは、尚真王の長男尚維衡が居住し浦添家を構え、4代目の尚寧が第2尚氏王統7代目の国王として首里に迎えられました。

その後、1609年の薩摩藩の侵攻を受けて浦添家は焼き払われ、さらに日米両軍の激しい戦闘が行われた沖縄戦で、戦前まで残っていた城壁の大部分も壊滅的な被害を受けました。しかしながら、城壁の基礎や敷石遺構、建物跡などが残されていることや湧き水の跡も2か所あり、浦添の歴史や文化、当時の生活の様子を知る重要な手がかりとなっています。

💧 残されている湧き水跡（場所は城跡内の案内板を参考にしてください）

❖ カガンウカー（鏡川）

「琉球国由来記」には、首里城から子（ね）の恵方の若水汲みの場所として大切にされて来たことが記されています。鏡のように水が澄んでいたことからこの名がついたと言われ、城内の女性たちはこの水鏡でお化粧をしたと伝えられています。

❖ カラウカー

「琉球国由来記」に記載されており、浦添グスク時代には使われていたと伝えられる泉跡。水が枯れたためこの名がついたようですが、いつの頃まで水があったのかはわかりません。

鈴木 辰三郎

参考文献：うらおそい歴史ガイド友の会うらおそい散策マップ【仲間地区】他

湧き水と祈り ～ノックして下さい！？～

県内の湧き水（井戸、カー）を訪ねてみると、傍らには必ずといっていい程小さな祠や香炉がある。それは、水がコンコンと湧いてる所、水は涸れていて形だけの所、或いは跡形もないが昔この場所に存在していたという事で、香炉だけがひっそりと佇んでいたりする。それは今なおこの場所で、先祖から命を繋いできたカーへの感謝の想いを伝えるに訪れる人々がいるからなのだ。

平成22年、湧き水fun 倶楽部活動一年目は浦添市内の湧き水の場所を確認することから始まった。前田にあるティーダウカーを訪ねた際、手を合わせ写真などを撮らせて頂いた後、カーの横のフェンス沿いを少し歩いた時、ふと何やら小さなプレート板が貼り付けられているのに目が止まった。

『ノックして下さい』

「えっ!？」思わず周りを見渡したが、カーの他には緑の草木と道路へと続く道があるだけだ。「誰に対して?」「どこに向かって??」一緒に行った湧き水fun 倶楽部の代表と二人で驚いて顔を見合わせた!これまで二人とも湧き水のある場所を訪ねているが、このような場面に遭遇した事がなかったからだ。よく考え

てみるとここはカーの前、水の神様がいらっしゃる場所なのだ。そう思うと湧き水のある空間は水と親しむと同時に、畏敬の念を持って接する場でもあるのだ。

そのプレート板はともすれば気づかない程控えめではあるが、現代人が忘れがちな見えないものに対しても謙虚になる気持ちの大切さと、ここは「神聖な領域の入り口ですよ」とやさしく教えてくれているのかもしれない。

ごや かずえ



首里城お水取り行事

シュリジョウオミズトリギョウジ

古琉球には、新年を前に国王の安寧と健康、国家の安泰を祈り、国頭村辺戸の大川で汲んだ水と首里城周辺にあるその年の吉方にあたる泉の水を円覚寺に奉納し水を清め、首里城御内原に献上する儀式があり、それを再現したのが首里城お水取り行事です。

「琉球国由来記」によると、12月20日に「時之大屋子」を遣わし辺戸へ行かせ、神アサギでのお水取りの開始が無事行われることを祈願、御嶽で万平を祈願、祝女殿内で祖先への感謝を祈願し水を首里に運びます。元旦に首里城周辺の吉方にあたる水を汲んできて、女官の内庫理阿武志良礼が辺戸と吉方の水とを王に献上します。

この行事は昭和初期に途絶えましたが、首里城復元期成会により平成10年に120年ぶりに復活され、毎年12月に国頭村辺戸の大川と浦添市の澤岬樋川でお水取りが実際に行われています。



① 神アサギの供え物



③ 澤岬樋川 お水取りの一行到着



⑤ 二つの水を国王に献上する行列



② 辺戸大川のお水取り



④ 澤岬樋川のお水取り



⑥ 二つの水は首里城へ

首里周辺の吉方にあたる泉

「琉球国由来記」によると首里からの吉方(恵方)の水は決まっています、子の方は浦添の鏡川(浦添城跡内)、丑の方は浦添の阿佐名川、寅の方は西原の幸地樋川、卯の方は弁ぬ嶽川、巳の方は崎山樋川、午の方は識名アク川、未の方は識名喜堀樋川、申の方は識名石志屋川、亥の方は浦添の澤岬樋川、その他、辰、酉、戌の方は定めなかった為、“ウトゥーシガー”として澤岬樋川の水が汲まれたそうです。

現在はほとんどの井戸が枯れたり、汚染されているため、すべて澤岬樋川で若水汲みの行事が行われています。

“ウトゥーシ”……御通し(おとうし)

神の居所が険阻もしくは遠い場合に、一般的に設けられる遥拝所。遥拝とは遠く離れたところから神仏などを遥かに拝むこと。ウトゥーシガーはウトゥーシをする湧き水のこと。

参考文献：沖縄大百科事典・大辞林

吉方の図



湧き水を調べてみよう

湧き水を調べる場合には、その周辺の状態（山、森、畑、住宅地）を確認するといいでしょう。また、年輩の方に湧き水の昔の利用状況についてきいてみるといいでしょう。

水質を調べるときには、次のようなものを準備しておくといいでしょう。



①地図
場所を探しましょう。



②バケツ
水を汲むのに使います。



③時計
水を汲んだ時間を調べましょう。



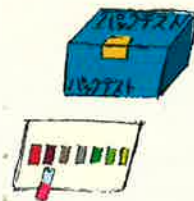
④温度計
気温や水温を測りましょう。



⑤コップ
水の色、臭いを調べましょう。



⑥透視度計
水の濁りを調べましょう。



⑦バックテスト
水質を測定しましょう。



⑧カメラ
地点状況を残しておきましょう。



⑨筆記用具
調べた事は記入しましょう。



⑩手袋
汚れた水もあるかもしれません。



⑪長靴
水で濡れないためです。



⑫ポリタンク
手洗い水を入れておきましょう。

【水質について】

今回、この冊子に掲載した湧き水の水質を検査した6項目については、水の性状（状態及び性質）を知るために行いました。その結果は、概ね「きれい」な水といえる結果だと思います。

ただし、この結果でその水を飲用できるとの判断はできません。人が水を飲用する際には、厚生労働省の定めた、水道水質基準50項目の検査が必要で、その全ての項目をクリアしなければなりません。水道水質基準については、厚生労働省のホームページに詳しく掲載されています。

<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/suido/kijun/>

なお、P30の⑦バックテストの購入方法は『バックテスト購入法』で検索するとわかります。

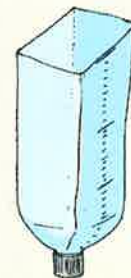
【用語の説明】

外 観：見た目、水の色、濁り等。

臭 気：臭いのことです。

透視度：水の濁りや着色の度合いです。左頁⑦の透視度計は右の図のように2Lのペットボトルで作ることもできます。

C O D：汚れの度合を示す数値です。以下にCODの値と水質の目安を示します。



CODの値	0	2~5	5~10	10~
評価	きれいな水	汚染がある	汚染が多い	汚れた水

【注意すること】

- ◆ 大人の人と一緒にいきましょう。
- ◆ 子ども一人だけではキケンです。
- ◆ 大人の方の言うことをよく聞きましょう。
- ◆ すべりやすい所があるので気を付けましょう。
- ◆ ハブやヘビがいるかもしれません気を付けましょう。
- ◆ 日差しが強い日は、汗をかくので水分をこまめに取りましょう。
- ◆ 帽子をかぶりましょう。日差しや、危険物から頭を守ってくれます。
- ◆ タオルをもっていると汗を拭いたり、けがをしたときに使えます。



【参考・引用文献】

「オーム社 環境学習研究会編 身近な環境調べ」

「合同出版 河辺昌子著 だれでもできるやさしい水のしらべかた」



湧き水fun倶楽部の主な活動



平成22年 **6月** 湧き水 fun 倶楽部発足

7月 第10回 浦添市まちづくりプラン賞受賞

8~12月 浦添市の18自治会をまわり湧き水に関する聞き取り調査

平成23年 **1月** 勉強会「沖縄の湧き水を訪ねて～沖縄のカー・井戸をたどる」
(講師：興南高校 長嶺操教諭 於：浦添市ハーモニーセンター)

2月 勉強会「湧き水が暮らしの中にあった頃～山原と湧き水」
(講師：今帰仁村歴史文化センター 仲原弘哲館長
於：同センター及び本部町具志堅フブガー)

3月 『浦添市湧き水 MAP』完成(3000部) マップ展同時開催
(於：浦添市ハーモニーセンター)

※東日本大震災支援の募金、及びタオル・携帯ラジオ寄付の呼びかけを行い、総額 12,646 円を浦添市とラジオ沖縄を通じて寄付。

4月 浦添市の湧き水散策
(井の大人川、当山ウフカー、当山ガー、伊祖クシヌカー、伊祖メヌカー、伊波ガー、伊祖イーヌカー、澤岬樋川、仲間樋川)

6月 講演会「沖縄の湧き水」
(講師：ぐしともこ 於：浦添市てだこホール市民交流室
主催：沖縄県シルバー人材センター)

勉強会「湧き水教育と水保全～現代社会における湧き水の意義」
(講師：おきなわ環境塾 後藤道雄塾長 於：ぬちゆるやー)

7月 第11回 浦添市まちづくりプラン賞受賞

ワークショップ：南部の湧き水めぐり
(ガイド：ごやかずえ、親富祖政昇 於：南城市玉城、糸満市他
主催：沖縄県シルバー人材センター)

勉強会「湧き水めぐりのススメ」
(講師：ぐしともこ、ごやかずえ 於：浦添市ハーモニーセンター)

8月 講演会「わくわく湧き水探検セミナー」
(講師：ぐしともこ、ごやかずえ 於：BOOKSきょうはん安謝店)

平成23年

10月 ガイド派遣 地域の湧き水散策
(ガイド：ごやかずえ 主催：経塚母親クラブ)

勉強会「沖縄の湧き水周辺に見られる動植物」
(講師：琉球大学風樹館 佐々木武志学芸員 於：琉球大学風樹館)



11月 ハーモニーセンターまつり資料展示

勉強会「沖縄の水道の変遷と現状」
(講師：金城義信 於：浦添市ハーモニーセンター)

浦添市環境市民会議参加

12月 国頭村辺戸お水取り見学

浦添市澤岬樋川お水取り見学



平成24年

2月 浦添市環境シンポジウム
(パネリスト：ぐしともこ 於：浦添市ハーモニーセンター)

3月 『浦添市湧き水 MAP』増刷(2000部) 資料展同時開催
(於：浦添市ハーモニーセンター)

4月 浦添市の歴史と湧き水について
(講師：浪岡光雄、鈴木辰三郎 於：浦添城跡、浦添ようどれ他)

6月 勉強会「湧き水をとりまく自然と環境について」
(講師：桂浩史 於：沖縄県環境科学センター)

7月 第12回 浦添市まちづくりプラン賞受賞

10月 市内18ヶ所の湧き水の水質検査

勉強会「防災と湧き水について」
(講師：浦添市危機管理室 川上隆室長 於：沖縄県環境科学センター)

11月 ガイド派遣 浦添の湧き水めぐり
(ガイド：浪岡光雄、ぐしともこ 主催：浦添市文化協会文芸部)

勉強会「沖縄の井戸・湧水を見直そう」
(講師：金城義信 於：沖縄県環境科学センター
報告「湧水水質検査」報告者：桂浩史)



平成25年

3月 『浦添の湧き水』発行(1000部)

湧き水によせて ～結びのことば～

環境省が平成21年度に実施した、全国の「湧水に係る状況調査」によると沖縄県の湧水把握件数は1,015件で全国47都道府県の中で4番目に多い順位となっております。また、県内41市町村の中で浦添市は31件で6位となっていることがわかりました。

私たち「湧き水fun倶楽部」のこれまでの主な活動としては、湧き水に関する講演会や勉強会の開催、湧き水を訪ねての散策会などがありますが、これに加えて特筆すべきことが2つあります。その一つは平成22年度に浦添市まちづくりプラン賞の助成を受けて「浦添市湧き水MAP」を作製し広く市民に配布しました。2つ目は、平成24年度に同じくプラン賞の助成をうけて「浦添の湧き水」を発行することになりました。これも偏に浦添市のご指導、支援のお蔭でありここに厚くお礼を申し上げます。

浦添市には浦添城跡を中心として、各地域に森や緑があり地下水から湧き出ている泉や井戸が沢山あります。私たちは、これらの湧水や井戸に関する情報も発掘して紹介すると同時にその環境保全や地域の活性化に貢献していきたいと考えております。また、平成23年3月に発生した東日本大震災の教訓から災害時における非常用水の確保として湧水や井戸水の活用が注目されています。

このような経緯から、今回のガイドブックは浦添市の湧水の紹介と併せて防災活動の一環として非常用水の確保の面からも参考になれば幸いに思います。

平成25年3月 湧き水fun倶楽部顧問 金城 義信

シゼンノメグミヲ
ツリカエル



表紙の写真の説明

1	3
2	4
	5

1. 仲間樋川
2. お水取り行事
(澤岬樋川)
3. 伊祖自治会
カープみ
(伊祖メーヌカー)
4. ベニトンボ
(安波茶樋川付近)
5. 水質検査の様子
(宮城の拝所)

※記載している湧き水の名称は、おもに地元の方が呼び親しんでいる名前を記載しています。

浦添の湧き水

編集委員・五十音順 ()内は担当頁

- 上間 恒信 (P22・34)
桂 浩史 (P4・5・6・7・13・14・17・30・31)
金城 義信 (P30・31・34)
ぐしともこ (表紙・P2・3・6・8・9・10・12・13・14・15・16・17・18・19・20・21・23・24・25・35・裏表紙)
ごやかずえ (P5・6・8・9・10・13・16・17・19・21・27・29)
鈴木 辰三郎 (P26・28)
浪岡 光雄 (表紙・P3・8・10・11・29・32)
我妻 弘子 (P25・28)
渡辺 達也 (P28・32・33・35)

- 水質検査 桂 浩史・金城 義信
イラスト 桂 浩史
協力 浦添市・浦添市各自治会のみなさん
沖縄県環境科学センター
二ノ宮 信夫
(写真/表紙・2・裏表紙・P8・9・28③④)
焼田 理一郎 (日本トンボ学会/P11)

印刷・制作 (株) かりさら